

2018年3月9日 全5頁

イタリア連立政権のリスクシナリオ

鍵を握るのはポピュリズム政党の五つ星運動

ユーロウェイブ@欧州経済・金融市場 Vol. 104

ロンドンリサーチセンター
シニアエコノミスト
菅野 泰夫

[要約]

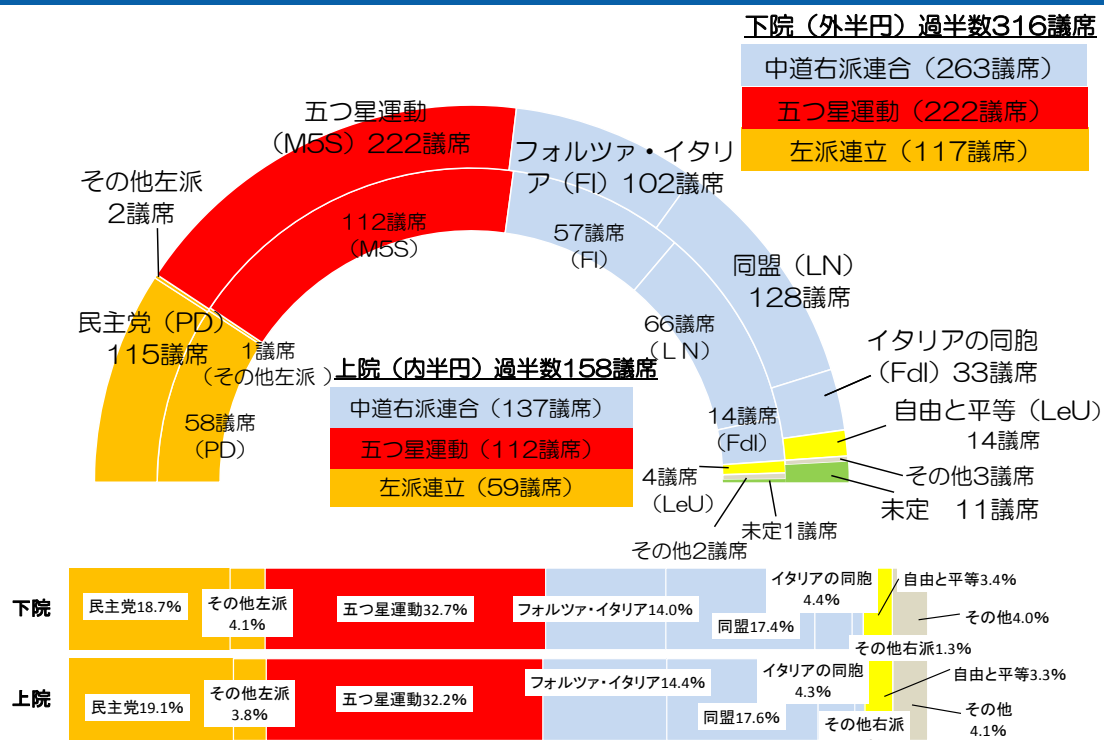
- 3月4日のイタリア総選挙の結果、事前の予想通り、どの会派・政党も絶対多数には至らない(どの党も過半数議席を獲得できない)ハングパーラメントとなった。下院では、政党別ではディ・マイオ党首率いるポピュリズム政党、五つ星運動が議席を伸ばし単一政党ではトップの222議席を獲得(得票率32.7%)、次いでサルヴィーニ党首率いる同盟(北部同盟から改称)が128議席(得票率17.4%)で続いた。
- 政権樹立には様々なシナリオが予想されているが、その中でも鍵を握るのは五つ星運動の動向であろう。各党ともに最大単一政党である五つ星運動を抜きにして政権樹立は不可能とみており、その一挙一動を注目している。
- ただイタリアの連立協議はドイツの総選挙の時以上に長い時間がかかる可能性が高い。特に首相任命権は大統領が持つものの、誰を首相に任命するかの明確なルールがないことが事態を複雑にさせている。当面、マッタレラ大統領は、上下両院での信任投票で支持される連立が確実に確保されたと判断できない限り、どの候補者も首相に指名しないとみられている。

イタリア総選挙はハングパーラメントが確定

3月4日に実施されたイタリア総選挙では、事前の世論調査の結果通り、上下両院、いずれの党派・政党も絶対多数には至らない（どの党も過半数議席を獲得できない）ハングパーラメントとなった。下院の結果を見てみると、政党別ではディ・マイオ党首率いるポピュリズム政党、五つ星運動が議席を伸ばし単一政党ではトップの222議席を獲得（得票率32.7%）、次いでサルヴィーニ党首率いる同盟（北部同盟から改称）が128議席（得票率17.4%）で続いた。両党ともに移民に関する厳しい政策を貫いたことが、得票率が大幅に伸びた要因とされ、新たな二大政党としての呼び声も高い。

一方、従来の二大政党の一角である、ベルルスコーニ党首率いるフォルツァ・イタリアの得票率は102議席（14.0%）に沈んだ。中道右派連合（同盟、フォルツァ・イタリア、イタリアの同胞）は、政党の中で最多票を獲得した政党から首相を任命することで合意しており、ベルルスコーニ党首の首相復帰¹は事実上消滅している。また民主党の議席数は、前回総選挙の際に獲得した281議席から、115議席まで大幅に減少し戦後最悪の結果となった。この結果を受け、3月5日にはレンツィ党首が、党首を引責辞任する考えを表明した。

図表1 イタリア総選挙の議席数（上）と得票率（下）の結果（3月7日時点）



(注) 3月7日時点でイタリア内務省が正式に発表した議席は、上院 314/320 議席、下院 619/630 議席
(出所) イタリア内務省より大和総研作成

¹ ベルルスコーニ党首は過去（2013年）の脱税・汚職問題で有罪判決を受け公職に就くことが禁止されているため、仮にフォルツァ・イタリアが中道右派連合内で最多票を獲得して、総選挙で勝利した場合も（2019年までの6年間）ベルルスコーニ党首は首相になることはできなかった。ただ同氏は、欧州人権裁判所にこの撤回を求めており、首相就任を目指していた。

イタリア連立政権のリスクシナリオ

ハングパーラメントとなった今回の選挙結果を受けて、政権樹立には様々なシナリオが予想されている。当面はジェンティローニ首相（民主党）による暫定政権となり、政権を維持しながら、各党が連立交渉を開始する予定である。まずは3月23日に新議会が招集され、上下両院議長を選出投票を行う。ここでの投票結果が、連立を占う上での試金石となる。その中でも鍵を握るのは五つ星運動の動向であろう。各党ともに最大単一政党である五つ星運動を抜きにして政権樹立は不可能とみており、その一挙一動を注目している。

ただイタリアの連立協議はドイツの総選挙の時以上に長い時間がかかる可能性が高い²。特に首相任命権は大統領が持つものの、誰を首相に任命するかの明確なルールがないことが事態を複雑にさせている（最大政党・会派の党首を任命する必要はない）。当面、マッタレウラ大統領は、上下両院での信任投票で支持される連立が確実に確保されたと判断できない限り、どの候補者も首相に指名しないとみられている。

金融市場が最も警戒しているのは、五つ星運動と同盟のポピュリズム政党連立であろう。両党は反移民や反ユーロなどの考え方が近く、また年金改革や労働市場改革、ロシアとの友好関係を保ちたいという点でも共通している。政策面では連立の制約が最も少ない2党が連立すれば、合計で半数を超える議席を獲得できる。当初、ディ・マイオ党首は、どの政党との連立も否定していたものの、選挙戦終盤には態度を軟化させていた。選挙直前の2月25日には、過半数を獲得できないまま第1党になった場合には、全ての政党に連立に向けた「政権合意書（連立要請書）」を提出する意向も表明していた。

問題は、五つ星運動のディ・マイオ党首および、同盟のサルヴィーニ党首がともに勝利宣言を行い、現時点ではどちらも首相への意欲を見せていることだろう。特にディ・マイオ氏は、ドイツと異なり（メルケル首相率いるCDU・CSUがSPDとの大連立のために財務相のポストをSPDに譲った）、他党に閣僚ポストを提供することはないとしているため、自身の態度を軟化させることが求められる。またイタリアは南北で財政面が大きく分断されていることから、この支持層の分断が2党の連立を阻害する可能性がある。そのため五つ星運動の関係者は、同盟との連立は1つのオプションとしながらも、必ずしも優先事項ではないとしている。

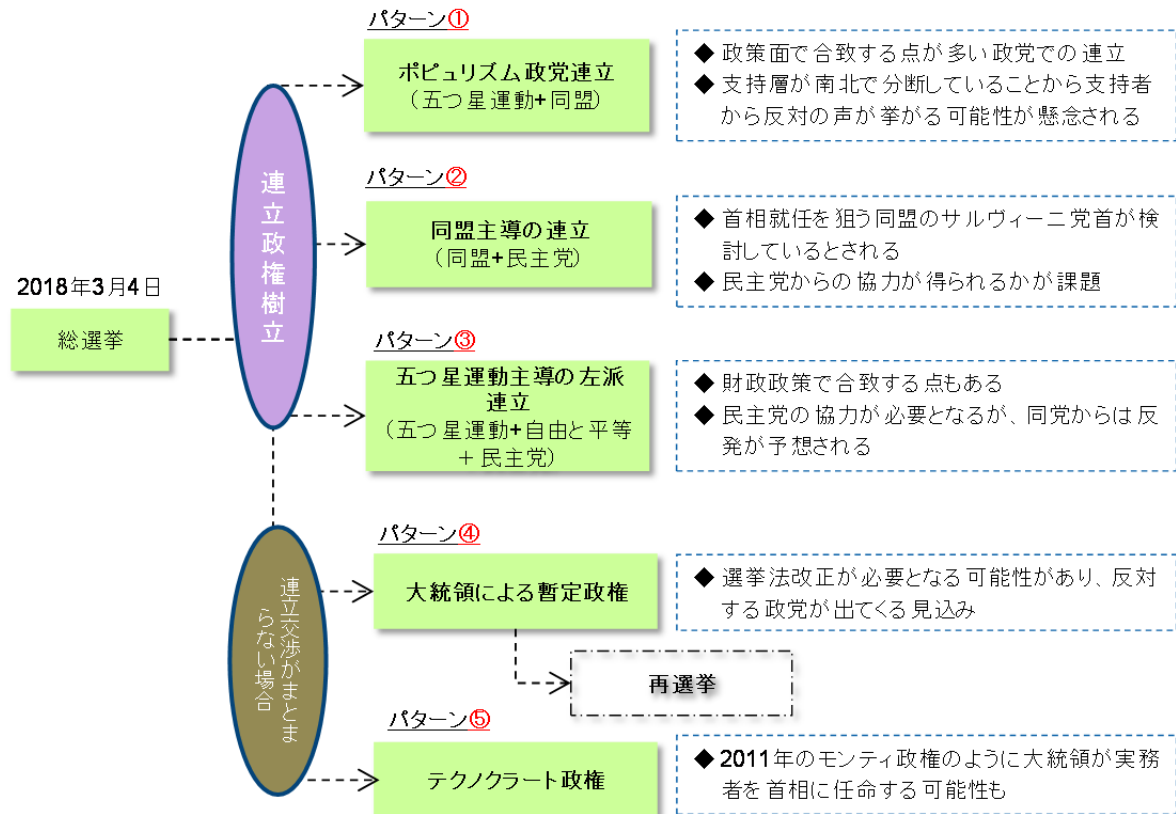
またディ・マイオ党首は、同盟との連立よりも左派政党との連立を希望しているとの報道もあり、五つ星運動主導の自由と平等および民主党との左派連立も1つのオプションといえる。ただしレンツィ党首が辞任したとはいえ、選挙後、五つ星運動に否定的な民主党を連立相手に引き寄せる必要がある。辞任を発表したものの、レンツィ氏が実際に党首から退くのは数ヶ月後とされていることも懸念事項の1つとされる。選挙終了後に自身のSNSに五つ星運動の政策などを強く否定する意見を掲載するなど、同氏が連立交渉において何らかの影響を及ぼす可能

² ドイツでは、昨年9月の総選挙から5ヶ月以上に亘り、連立協議がまとまらず政治空白となっていたが、今月4日にメルケル首相率いるキリスト教民主・社会同盟（CDU・CSU）と社会民主党（SPD）との連立が承認され、第4次メルケル政権が正式に発足した。

性は十二分にある。

ただ民主党の議員は、（閣僚ポストを譲らないとするディ・マイオ党首に対して）閣僚ポストなどを要求せず、政策ごとに支持を検討する少数与党政権の可能性も示唆している。

図表2 イタリア総選挙後の連立政権の予想シナリオ



(出所) 大和総研作成

結論が出なければ再選挙も

仮に連立協議が進まず数ヶ月経過した場合、マッタレッラ大統領が暫定政権として全党連立を発動する可能性がある。イタリアでは政局混乱時には、大統領が暫定政権を擁立することができる。ただその際、大統領は全ての党への協力を要請し、全党が同一の暫定首相を承認し、再選挙までの道のりを示す必要がある。

ただし、ここにいくつかの障害が考えられるだろう。イタリアの大統領は国会解散権を持つ唯一の役職であるが、マッタレッラ大統領は再選挙のオプションを発動することに否定的な態度を示している。また再選挙となると、国会運営の日程面での懸念が大きい。仮に連立協議が失敗した場合、再選挙が決定するのは、どんなに早くとも5月以降と想定される。議会の解散が宣言されてから、(最短でも)約60日後に選挙が実施されるため、再選挙の日程は最短でも6月末～7月ごろとなる。ただ、ホリデーシーズンの初めにイタリアで選挙を実施する選択肢については、(イタリア人の気質からも)国民の理解を得ることは難しい。また選挙後、再度ハングパーラメントとなると、9月までに承認期限を迎える来年度予算案の審議が滞るなどの懸念

もある。そのため（ハングパーラメントとなることを避けるため）、今回の選挙から廃止したボーナス議席を復活させるなど、再び選挙制度の見直しを検討する可能性すらある。無論、再選挙を回避するためにも、大統領の大権として、2011年のマリオ・モンティ首相以来のテクノクラート政権（大統領が実務者を首相に任命する）も意識する必要があるだろう。

ディ・マイオ党首、（最大会派となった同盟の）サルヴィーニ党首の双方とも、連立を組むための全てのオプションを検討する意向を示しており、首相就任への執着がうかがえる。ただ両党ともに、現段階では、どの連立政権のオプションも課題が多く、容易でない道のが予想されている。当面、連立政権樹立まで混沌とするイタリア政界への注目が続くといえよう。

(了)